

## 平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	経営基本能力とプレゼンテーションマインドで学生の起業を支援するための教育プログラム開発とその実践		
法人名	学校法人龍馬学園		
学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ		
代表者	理事長 佐竹 新市	担当者 連絡先	上岡 直司 TEL088-875-0099
<p>1. 事業の概要</p> <p>起業を目指す専門学校学生を対象に、新規性、現実性、継続性などをふまえ、アイデアを実現可能な数値へ落とし込み、ビジネスに昇華させるための経営の基本能力を養成する教材を開発した。また、実務経験の少ない学生が自信を持って説得力のあるプレゼンテーションを実施するためのプレゼンテーションマインドを養成する教材を開発した。さらに、開発した教材を用いて学習した学生にビジネスプロデュース審査会を開催し、ビジネスプランの評価、発表の場を提供するとともに実社会との接触の場、起業機会を創出した。「教材開発→研修→発表の場」という一連の教育プログラムの実施を通して起業家育成教育を実践するとともに、これら起業家教育を推進するために学生指導を担う教員を養成するための教材を開発し、起業家教育の向上と学生の支援を目指した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業では、昨年度事業の成果をもとに、起業を目指す専門学校学生を対象に、実社会・産業界からの要求に対応した起業家育成の教育プログラムを開発し、学生の起業を支援するため以下の3つの事項に取り組んだ。また、学生や教員のモチベーションを持続させながら教育の効果を測定するためにビジネスプロデュース審査会を開催した。</p> <p>(1) 経営の基本を理解し、具体的な数値に置き換えることができる能力を養成するための学生向け教材を開発し、実践した。</p> <p>(2) 相手に「伝えることができる」プレゼンテーションマインドを身につけるための学生向け教材を開発し、実践した。</p> <p>(3) 起業や起業実務を理論的、体系的に教えることができる人材を育成するための教員向け教材を開発し、起業家教育教員研修会を実施し、内容を検証するとともに、開発した学生向けの起業家能力養成教材の内容を精査した。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>■経営基本能力養成教材 学生が苦手であるアイデアの数値化、ビジネス化を学ぶための基本となる教材を目指した。専門学校教員を対象とした研修会では、94.5%が適切な内容であるとの評価をした。</p> <p>■プレゼンテーションマインド教材 相手に自己の立案したビジネスプランの内容を短時間で正確に伝えるためには、プレゼンテーションの技術も必要であるが、相手に理解を促すマインドがもっとも大切である。プレ先手ーションマインドを学ぶための教材を開発し、相手を納得させるマインドの養成を目指した。</p>			

#### ■教員用起業家育成力養成教材

学生に数値化能力やプレゼンテーションマインドを教育するために教員の指導力向上のための教材開発を手がけた。事業時間の設計や指導のポイントなどを簡潔にまとめた授業運営のためのガイドともなるよう構成した。

#### ■ビジネスプロデュース審査会

アイデアの数値化やプレゼンテーションを学んでいる学生を対象にビジネスプロデュース審査会を開催した。

16の専門学校から70プランの応募があり、8校 10プランが会社経営者などの前でビジネスプランのプレゼンテーションを行った。審査を担当した会社経営者からは、事業計画書に質やプレゼンテーションがよくなったとの評価され、開発した経営基本能力養成教材およびプレゼンテーションマインド教材の有効性が確認された。

「教材開発→研修→発表の場」という一連の教育プログラムの実施を通して学生のビジネスプランやプレゼンテーションの向上が確認された。また、ビジネスプロデュース審査会では、審査員から具体的な事業化のアドバイスが出るなど、学生の起業意欲の向上に結びついた。

### ③今後の活用

開発した教材は、平成20年度より当校、すべての学科に教材としての活用が決定している。さらに、専門学校10校で、平成20年度授業に使用することが決定され、学生350名に配布されることとなった。

同時に教員指導書についても委員の専門学校教員に100部を配布した。

このほか専門学校3校が教材としての活用を検討しており、様々な活動の中で教材を紹介し、導入する専門学校を増やし、広く普及に努めたい。

### ④次年度以降における課題・展開

本事業では、教材を開発し、発表の場の提供を実施した。この成果をもとに教育プログラムを確立し、起業家教育の更なる発展に努めたい。

今後の課題として

学生が自ら能動的に学習したり研究をするための仕組みや仕掛けの構築をする

多くの専門学校から指摘のあるように、起業家教育は従来の暗記や訓練を中心とする専門技術教育とは異なり、気付きや自ら学習することが重要である。

本事業の成果をもとに学生が自ら学ぶ意欲を向上させる仕組みとしてビジネスプロデュース審査会を継続し、更なる発展に努めたい。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①起業家教育視察調査

大学で行われている起業家教育教育がどのように実施されているかを把握し、教員用起業家育成力養成教材を作成するための基礎資料とするため、12月から2月にかけて3校の起業家教育を積極的に実施している大学へ視察調査を行った。

視察先・・・関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科 吉田雅紀 教授、

法政大学 経営学部 准教授 金容度(キムヨンド) 准教授

九州大学ベンチャービジネスラボラトリー 五十嵐 伸吾 准教授

大学や大学院での起業教育は、起業に必要な科目については選択をして学習する仕組みであり、起業家教育の範囲は起業家精神、マインドの教育が中心である。また、起業家教育は、学生が能動的に動くことは不可欠であるため、教育機関としてできることは、学生が能動的に行動する仕掛けや仕組みの構築であった。

### ②カリキュラムの開発

#### ■経営基本能力養成教材の開発

学生のビジネスアイデアを実社会の評価に耐えうる事業へと進化させるための、経営の基本能力を、ビジネスの新規性、実現性、継続性などを踏まえて養成する教材を開発した。具体的には、損益計算やキャッシュフローの考え方を理解し、自分の頭の中にあるアイデアを数字に置き換えることができる力を養成することを目指した。

また、専門学校の教育に取り入れることを前提として、17コマで学習できるよう工夫をした。

### ■プレゼンテーションマインド教材の開発

経験の少ない学生が、自信を持ってプレゼンテーションするためには、立案したビジネスプランを自己のものとし、裏づけを持って説明することが大切であるとともに、プレゼンテーションに望む気持ちや相手を説得する心構えなどマインドを持つことが成功への鍵となる。テクニックや技術に偏りがちなプレゼンテーションのマインド面の養成する教材を開発した。

専門学校の授業設計を考慮し、15コマで実施できるよう開発した。

### ■教員用起業家育成能力養成教材の開発

多くの専門学校教員は、それぞれの専門は有するものの、起業の経験を有する者はほとんど見受けられず、起業や起業実務を理論的、体系的に教えることのできる人材の養成は最重要項目にあげられる。

専門学校教員が起業家育成教育を実施するためのガイドとなる教員用起業家育成能力養成教材を開発した。

教員用の教材は、授業実施を考慮し、経営基本能力養成教材、プレゼンテーションマインド教材と連動したものとした。

### ③実証講座

#### ■起業家育成教員研修会

開発した教員用起業家育成能力養成教材を用いて、専門学校教員を対象に、研修会を開催する。教員用起業家育成能力養成教材の範囲、領域、レベルなどについて検証を行った。また、参加者のアンケート結果から教材の精査をする。

(1) 日 程 : 平成20年1月10日

(2) 開催地 : アルカディア市ヶ谷(東京)

(3) 対 象 : 専門学校教員

(4) 参加人数 : 18名

(5) 時 間 : 14:00~17:00

(6) 内 容 : 開発した教員用起業家育成能力養成教材を用いて、専門学校教員を対象に、起業家教育に求められる能力や授業の進め方、指導法などについて解説をした。また、開発中の経営基本能力養成教材を用いて、演習を行い教材の内容について意見を収集した。

参加した専門学校教員からは、17コマの設計がちょうどよい、演習の内容が優れているなど意見をいただき、学生向けの経営基本能力養成教材については、94.5%が適切な内容であるとの評価をいただいた。

#### ■ビジネスプロデュース審査会

学生が立案したビジネスプランの発表の場、評価の場、また起業家と出会いの場としてビジネスプロデュース審査会を開催した。審査会を通して、教員の指導成果、および学生への教育効果を確認するとともに審査会で発表されたビジネスプランは、総括報告書として取りまとめ、全国の専門学校816校に配布した。

募 集 期 間 : 平成19年11月21日~平成20年1月18日

応 募 数 : 70ビジネスプラン(専門学校16校)

一次審査(書類選考): 平成20年1月23日

※書類審査を通過したのは、8校 10プラン

二次審査(プレゼン) : 平成20年2月17日

グ ラ ン プ リ : 『株式会社エブリリンクが運営するクロスメディア手法による旅行支援事業の提案』  
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

準 グ ラ ン プ リ : 『「モラルハザードをモラルマイルで救う！」日本のモラル低下を防ぎ、生活道徳を楽しく習得する。』

トライデントコンピュータ専門学校 大阪

審査会は、関連する学科を持つ専門学校816校に募集要項・ポスターを配布し、参加を促した。ビジネスプランは、専門学校16校から70プランの応募があった。一次審査(書類選考)により、10プランが選考され、起業家や会社経営者の審査員にプレゼンテーションを実施した。

審査会終了後の参加学生のアンケートでは、「スムーズにプレゼンテーションができた」「自分の考えを多くの人に伝えることができた」など前向きな意見が聞かれ、人前で話すことに自信を持つことができおり、プレゼンテーション教材の有効性が確認された。審査員からは、「昨年度に比べて、ビジネスプランの質も向上し、プレゼンもうまいチームが多くなった」との高い評価を得た。

#### ④その他

本事業では、教材開発～教員研修～ビジネスプラン策定～ビジネスプロデュース審査会という一連のプログラムを実践し、学生の起業を支援することを目的とした。事業を進める中、大学の視察調査などから起業家を目指すことは、能動的に自ら行動を起こすことが大切であるが改めて確認され、その仕掛けの構築が重要な課題となった。今後、ビジネスプロデュース審査会をさらに発展させることが重要であると考え。

専門学校へ起業家教育をさらに普及・導入する推進するため、本事業では、授業時間の設計や指導内容を検討し、教材開発に取り組んだ。開発した教材は、専門学校の教育のに導入しやすいものとなったと考えている。これから多くの専門学校に起業家教育の導入を検討いただき、自ら考える人材の育成を推進したい。